

武雄市議会だより

栄八通信

第 37 号

14710 月末発行



武雄市議会議員
宮本 栄八
TEL・FAX 23-0750
携帯 090-5083-0793

平成20年度経済対策補正と 平成21年度予算、昨年度比 10億円減の185億円

【平成20年度補正】

世界同時不況の対策として、国より、約3億3千万円が臨時交付金 came。武雄市も市費から6、000万円を出し、総額4億円の予算上乗せで、その分仕事が増えて経済活性化に役立つと思った。しかし、今回の補正前の額が、約204億円で、補正後が約204億8千万円で、ほとんど増加しなかった。なんだこれは、と中身を見ると、不況対策の為の交付金は増加したが、その分、市債や繰入金が減らしてあった。

要は、当初に借入れして仕事をする予定を、国の交付金を利用し、借入れを減らしたため、予算総額が増加してなかった。市としては借金を少なくして良いかもしれないが、不況対策の目的で、交付された約3億円は、増額して、予算化して欲しかった。

【平成21年度予算】

新年度のH21年度予算は、これも、昨年より増額になると思っていたが、H20年度当初予算は、195億円からスタートしたのに、今、H21年度の当初予算は、185億円と10億円も少ない。その理由として、朝日小などの大規模の学校改築が終り、本年度

は西川登小の校舎改築しかないからと言う。無駄な事業をする必要はないと思うが、緊急の地域経済対策や雇用対策が注目される時でありそれが具体的に裏付けられる当初予算を出して欲しかった。

ただ、まだ、H21年度は、補正予算の増額も期待はできる。先のH20年度の補正予算の中で武雄小・武雄中の改築や山内町の老人福祉センターの設計委託料を前倒しで、発注しているの、その建設が、早く動けば、H21年度予算の増額は十分可能と思うので市議として提案もして行きたい。

ちなみに、今年度の事業や予算の主なものを紹介すると、
○幼児医療助成
.....9、574万円
小学校入学前の子どもの入院や通院の自己負担を後日返金する形で市が無料化する。近隣の嬉野市や鹿島市では、すでに実施されており、子ども部まで作るわりには、ユニークな所は早い、基本的な部分は遅いと思うっていたので、ようやくほっとしている。

ちなみに、この助成を受けるには、病院からの領収書と申請用紙(ダウンロードか、支援課で入手)に添付して提出する。

○防災行政無線整備事業：2億円
2億円と、新規事業の中では、際立って高額である。要は、電柱などにスピーカーを付けて災害の緊急情報を伝えるもので、市内約70個を設置すると言う。以前は整備に多額を要するとして慎重だったが、八幡岳にある。国関係の中心局を使うと、配線せずに安値にできる事から実施に踏み切ったと言う。

○西川登小学校改築
.....1億4千万円
二期目で本年度で終了する。校舎並びにインターロッキング舗装など外溝工事なども行なう。

○レモングラス・いのしし
.....1、540万円
レモングラスの商品開発やいのしし肉の特産化。また、被害対策800万円を含む市の看板事業。

○その他の事業
○新工業団地整備
.....5億3千030万円
.....1億5千350万円
別途解説します。

○主要道路整備
市道を3本整備する。朝日小の西側・西川登町の高速の側道・山内町の白水・唐の原住宅線。その他は、道路維持費で対応している。

○自治公民館建築等補助
宮野町・竹下町・納手・北栖崎・血宿・赤穂山・大野原(旧武雄市内)・大砂古(山内町)の8ヶ所を市が補助で100万が上限。

.....535万円

市民病院の売却正式決定

精算金12億円の手当と今後の動き

H19年12月の行政問題審議会の「専門家を含めた話し合い」の意見書が無視した形で、強引に進められた。市民病院の民間売却は、市民を二分して、リコールや選挙と進んでいった。私は、市民病院の存続か売却かは、大切な問題で、市民の選択にゆだね、それに従う方針は変っていない。ただ今回の選挙において、市民が、内容を十分に説明を受けて判断できたのかは、はなはだ疑問です。

どちらかと言えば、説明を避けて、市民が、理解が進む前に決着させた様に思います。

選挙の結果は、樋渡市長は、5千票あまり、3年前より減ったものの、再任され、市民病院のH22年2月に、売却される事になると思います。ただ、市議として、これまで以上に明らかにされなかった疑問や問題点については、調査、解明して市民の方にお伝えして行きたいと思っています。

【説明責任の問題点】
存続・売却の判断とは別に、まず説明や話し合いが不足していた事が、大混乱の原因と見る市民も多く、選挙後の12月議会(一月)で市民説明会の開催を求めた。3月までには、市・池友会・医師会の3者に、市民を加えた4者会議を開催するとの答弁だったが、未だに開催されていない。一方、市民への説明会については、市主催では行なわず、各団体から要請があれば、出向くとの方針を、今3月議会で答弁があった。

【売却精算金12億円の問題】
今3月議会で、H20年度の決算見込みと、H21年度の池友会への売却損の精算を含む予算が賛成多数で可決され、決着がついた。

数で可決され、決着がついた。もともとH20年度については、当初予算では、黒字を予定していたが、売却話しの混乱から、約4億8千万円の赤字。余剰金とも見れる、支出の伴わない減価償却費の約9千万円を除いても、約4億円の赤字で、開設当初以来の銀行から2億円の一時借入れをして対応した。

市長が、売却の理由とした6億円の赤字は、減価償却費の赤字で支払いに困らなかったが、今回は資金不足で、支払ができず、現金ベースの赤字になってしまった。

H21年度の収支の見込みは、池友会に売却して精算後の最終欠損の型で、12億17百万円を予定している。

結局、市長の問題とした、開初からの8年間の、6億円の支払の足りない赤字から、売却問題で混乱した2年間で、約2倍の12億円の損になって売却する事となった。結局、今さら、簿価を元に話ししても意味がないので、現金ベースで考えると、市民病院はH19年には、約4億円の資産を持っていた。それを、H20年度の混乱の4億円の赤字の穴埋めに使い資金残高0に。

H21年度は、営業収支は同額の見込みとの事で考えなくて良い。

後は、売却精算で、借入金約11億あり、池友会への土地建物売却代金約4億円を引いた、約7億円と退職金約4億円の、約11億円が必要。市は、7億円については、一旦、銀行から借りて返し、後年、交付金をあてる。また、4億円については、一般会計職員の退職積立金より支出するので、一般会計

に迷惑をかけないとの説明。しかし、交付金は、別に使用しても良いし、本来、一般職員の為の積立てなので、最終的には、一般会計に影響あると思う。私は、この売却で、H19年の保有資産、4億円とこの11億円の合計、15億円は市が損害をこうむったと思っている。

売却するにしても、土地の坪単価が、2万3千円程度だが、川良も実勢価格も7万円程度は、するのではないのかと言う点と、病院を解体するのを前提に買うのであれば、建物に価値があるのではなく、市民病院の許可ベッドの営業権に価値があるのであり、近隣でも、1床当り400万円程度で売買されたとも聞く。そうなれば、153床で5億円の価値も。

【病院移転と跡地利用】
H22年2月より、3年以内に移転新築を条件としている為に、市が企業誘致あつかいで、場所の斡旋をしている。元々、将来市民病院の移転候補地として、東部(旬鮮市場やバチンコ店の所)の西側が計画されていた。しかし、今、御船小横の競輪場の第4・5の駐車場に立地する様に、地主と交渉している模様だが、地元では景観や交通問題で、反対の声も。

一方、現病院は、解体せずに、選挙中は、高齢者施設として利用する様な事も聞いたが、今議会でも、大規模感染が心配されるとい、新型インフルエンザ関連の施設にしては、との提案もあっていたが、市長は、地元の川良の方の意見を聞いて進めるとの答弁。

【訂正】前号で19人の与党議員の表は、賛成議員に訂正お詫びします。

戸別浄化槽(市設置型)に着手

市民負担60万円が15万円に低減

新年度より、戸別浄化槽事業が開始される。これまでは、各家庭で、約100万円(市・県の補助を含む)をかけて、設置していた浄化槽を、今後は、市が、個人の宅地内に、無償で設置する事業。また、定期点検や清掃・汚泥引きぬきなども、市が行なうこととなります。

ただ、公共下水道や農耕と同じく、加入金の15万円は必要です。また、月々の使用料金は、水道使用料金から計算し、一般的な家庭の平均とされる。20㎡で、3、800円(税抜き)となります。

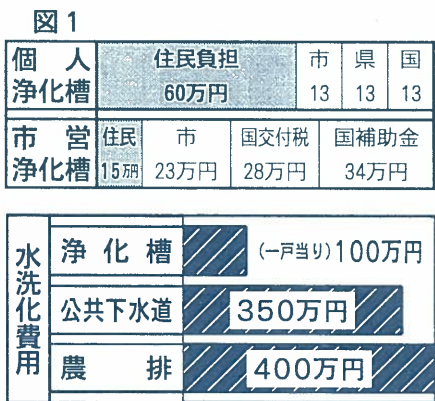
一方、この事業は、正式には、「市町村浄化槽整備促進事業」と言い、H15年に、法律の改正があり、武雄市でも、実施できる様になったため、私もこれまで、ずっと市に事業着手を求めてきました。

この約5年間、時には、市や担当者と議論や対立もありましたが、結果的に実施に至ったことに感謝します。

ここで、再度、武雄市の汚水処理の状況を整理すると、旧山内町は農業集落排水事業で、すべて整備が終了している。旧北方町は、南部の橋下地区が、同じ農排で整備されているが、北部は、特別環境下水道(小規模な下水道)で計画されているが、実施されていない。

旧武雄市の部分については、農排が、2地区の約100戸のみ整備されているが、今、中心市街地の32ha、駅付近から、武雄温泉旅館街付近の整備を実施中です。

ただ、この事業実施のスピードで行けば、市全体が整備されるのに、70年〜100年かかる計算になります。それを早期に整備する為に、



20ha、約30億円で北方町に造成

新武雄工業団地は2年後完成

合併前の住民アンケートでも、新規雇用の場の創出は、要望が高かった。樋渡市長の3年前の選挙の時は、数社から問い合わせがあった。この話で、近々に企業が進出して来ると受け取って応援した市民も多かったと思う。

結局、この3年間、市長の人脈での企業誘致ができない事も明らかに。なって来たので、やはり、基盤にもどり、工業団地を整備し、企業の進出を促進するしかない。

そこで、今回、新武雄工業団地と名付け北方町の西宮郷地区(七彩の湯近く)施工面積29ha、実面積20haの工業団地を新たに計画。総事業費、約30億円をかけて、

H21年度に、基本計画と用地買収、H22年度に、造成工事を終了し、2年後のH23年には、立地できるとの計画である。

イメージ的には、若木の工業団地が、26haなので、今回の北方は、20haで少し小さいが、若木の様に小区画に分けず、1〜2区画にし、現在、県内に大規模な工業団地がないので、そこに対応すると言っている。

もともと、合併前の古庄市長の時から、商工会議所と共同で、地元要望として県に申し入れていたが、鳥栖との立地争いに負けたので、次に国の広域的工業団地補助を活用した工業団地の指定で受けるべく伊万里市との界に計画したが、伊万里がSUMCOの増床の対応で手いっぱいなのを反応がぶく進歩がなかった。

今回、県が、直営の工業団地方式のリスク回避のため、「共同開発方式」を採用し、先の鳥栖・唐津・有田・武雄の4工業団地を地元自治体と1/3ずつ負担して整備することとなった。

大いに期待する一方、100年に一度と言う、世界的不況、とりわけ、これまで、輸出の中心であった自動車関連や、ICチップなどの電子部品の不況で、企業進出のハードルが高くなった。

そこで、市民の中にも、今の時期、大規模な工業団地造成に対し慎重な声もあり、今回の一般質問で、売れ残った時のリスクに対する市の考えを市に訊ねたが、売る事に全力を上げる主旨の答えでリスクに対する答えはなかった。

しかし、税金を使って行っているものであり、今の時代、リスクに対する説明責任は果たすべきと要望した。

後日、自分で調べたところ、H23年度に分譲して完売すれば、何の問題もないが、もし売れ残った時は県が、事業着手した、H21年度から、H25年度までの5年間は、借入れ金の利子の1/3は負担すると言った。しかし、その後については明確な取り決めはないと言った。

若木の工業団地は、県営で、完売しなくても、市として実害はなかったが、今回は違うので、市には、頑張ってもらいたい。

ちなみに、工業団地は全国的には、高速のインターに近く、平坦地で、坪3万円代が理想とされるが、今回の工業団地は、インターに近いが山手である事と、分譲単価が、坪4万9千円程度との2点に気がなるが、高速に近く、早急に広く用地確保できる所は限定される事。また、坪単価については、県内他市町の工業団地も、5万円弱程度でそう条件的に悪くなく後は営業努力しだいたいと思われる。県内3地区よりも早い立地を!

西川登小学校改築と今後の改築計画は(武雄小と武雄中)へ

旧武雄市において、ここ10年ぐらいいは、学校の校舎・体育館の改築が、主な事業で、年次計画をたてて切れ目なく実施して来ましたが、ただ、一応、正式に公表されているのは、現在、工事中の西川登小の校舎改築までです。

以前より、今後の年次計画を提出を求めています。中国での大地震で学校の倒壊を受けて、国も耐震強度の低い学校に特別補助を出す方針が示されたのを機会として、市は、この耐震調査を基に、改築年次計画を発表するとの事で注目していました。

結局、整備の年次計画は公表されず、H20年度の補正に、武雄小学校の職員室等や武雄中学校の校舎の設計や川登中の耐震調査が予算化されていることから、1〜2

年、は、これらが実施されるのだろうと思う訳ですが、やはり、小学校などは、地域の中心であり、早くからの住民を含めた話し合いも必要であり、年次計画が必要としたい。年度予算の増大の為に切れない改築計画が不可欠です。

ちなみに、年次計画とは別に、耐震強度の調査結果が、示されたので、市内小中57棟のうち特に弱い方から記述しますので参考にしてください。強度0.3以下には、国の補助が追加されます。

ご覧のとおり、武雄小は全面的に早く整備する必要があります。

武雄中	
◎教室棟	0.23
武雄小	
◎教室棟	0.39
◎管理棟	0.18
◎体育館	0.38
山内中	
◎教室棟	0.33

制作後記と今後のプラン

市民病院問題で混乱のH20年、ただ、これを通して、知る事も多かった。医療というものが、連携して機能を果たしている事や、多くの市内の方が、医療や福祉の分野でお仕事されていることなど。

また、リコール運動などを通して、各町の市民の方と本音の意見交換もできたし、武雄市はじまって以来の住民運動にも参加できた。しかし、共通の目標である「一旦立ち止まって、考えよう」との主張は選挙という形になり、目標達成はしなかった。

ただ、選挙後、市民の方から、「選挙は、負けたばってん、市長が高齢者対応や15人医師確保など公約した、とは、あんなたちのおかげ」など、運動自体に意味はあつたとの、声もいただいた。

また、武雄市、初の懲罰委員会にもかけられた。それも出来レースの件、納得できないと言ったただけであり、またテレビ放映は、懲罰の対象とならない3日以上前で、最後は、理由があやまり方が悪いとか、普段の行動が悪いとか変化して、それこそ納得できない。市民の方からは、県に申し立てて戦えとも言われたが、除名などの重い時しかできない。

一方、ここまで来れば、売却後の病院の状況を見て、市民が、費用面、医療面を比べて、かかる所を判断する事になると思う。

ただ、市民病院の機能を引き継ぐとの話だが、8階建て、50億円の投資を回収するには、入院単価5万円は必要で、現在の高齢者対応の3万円では難しいのでは。